

群馬県児童養護施設スーツ等寄贈事業「卒園生を送る会」報告

2018年1月20日（土）、伊勢崎プリオパレスにて、群馬県内の児童養護施設21名の卒園予定者（うち1名は自立援助ホーム）と各施設の施設長及び職員の方々16名をお招きし、「卒園生を送る会」を開催しました。今回で4回目となる継続事業で、事業費全額をニコニコBOXから活用させていただき、例会扱いの事業ということで非常にプレッシャーのかかる事業でありました。準備期間の間、地域社会奉仕チームは卒園生21名が心から喜んでもらえるよう会議を重ね、当日においては奉仕グループの方々、SAA、公共イメージ他ピンポイントでお声掛けさせていただき、多くの会員に設営の補助を賜り感謝しております。

卒園生がスーツに着替え、1列に整列した姿を見たときは、今までの苦勞が報われた気がいたしました。また卒園生代表、吉田さんからの挨拶では、「皆さんの温かい気持ちに支えられていると実感した。将来は自分も誰かを支えられるように頑張る」と大変、嬉しい言葉を聞くことができました。山崎グループリーダーとチーム内で決めた3曲のBGMは、これからもずっと聴く度にあの光景を思い出しそうです。一部のスーツ寄贈式は、会長、パスト会長のご協力でスムーズに行え、群養協須田会長と各施設長も打合せ通りの持ち時間でご挨拶をいただき、食事時間を予定より10分多くとることができました。食事時間は、20分間の予定でしたが、後部円卓の方々における配膳を考慮すると30分間は必要だと感じました。因みに料理のメニューは、「最後のお子様ランチ」を堪能いたしました。

二部は会場を隣りに移して、「タイガーマスク運動から・・・今後への希望」と題し、河村正剛様と当会員、高橋しげみさんとのインタビュー対談を行いました。河村様からの「つらい思いをした人は優しくなれる」という言葉が印象的で、卒園生の後ろ姿からも真剣に聞いている様子が伝わってきました。また河村様の思いが行政を巻き込み、ふるさと納税の寄付を施設卒園生に向けられる運動が始まったことは、まさに今後の希望であります。各施設の卒園生が用意した質問も全て答えていただき、対談は約1時間でありました。

当会員、高橋しげみさんのコーディネートも非常に素晴らしく、あっという間に終了いたしました。一部、二部を通じてご協力いただいた全ての方々に感謝いたします。



（報告者：地域社会奉仕チームリーダー 加藤 学）